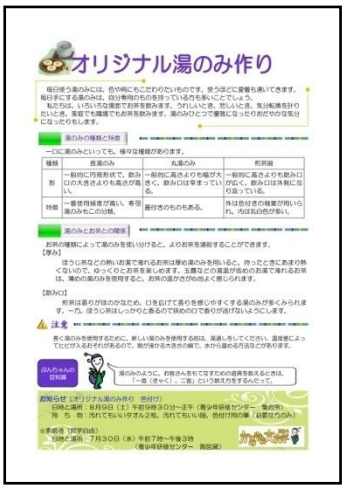
～かめやま文化年 2014 メイン事業～

３限目　オリジナル湯のみづくり・色付け

夏休みを目前に控えた7月12日（土）、青少年研修センターで、オリジナル湯のみづくりを行いました。陶芸サークルの皆さんを講師にお迎えし、この日はろくろを使わず「手捻り」で湯のみを作りました。自分の理想の形にするのは想像よりも難しく、苦戦される方もみえました。作品は、サークルの皆さんにより高台をつけていただき、よく乾燥させたあと、7月30日に素焼きを行いました。

色付けは、台風の都合で1度延期になりましたが、翌月9月13日（土）はさわやかな天気に恵まれました。引き続き講師をしてくださった陶芸サークルの皆さんにくわえ、絵付けが専門であるマツモトタカシ先生も駆けつけてくださり、参加者は3つのパターンに分かれて色付けを行いました。

着色された作品は、9月17日に本焼きをしていただき、作成から2ヶ月を経て完成しました。



オリジナル湯のみ作り

毎日使う湯のみには、色や柄にもこだわりたいものです。使う度ごとに愛着も湧いてきます。毎日手にする湯のみは、自分専用のものを持っているひとも多いことでしょう。
もともとは、いろいろな場面でお茶を飲みます。ひげしいとき、楽しいとき、気分転換及び休けいとき、家庭でも職場でもお茶を飲みます。湯のみひとつで優雅になったりおだやかな気分になったりもします。

湯のみの種類と特徴

一口に湯のみといっても、様々な種類があります。

種類	筒湯のみ	丸湯のみ	煎茶碗
形	一般的に円筒形状で、飲み口の大きさよりも高さが高い。	一般的に高さよりも幅が大きく、飲み口は平まっている。	一般的に高さよりも飲み口が広く、飲み口は多角に広がっている。
特徴	一番使用頻度が高い、寄型湯のみもこの分類。	番付きのものもある。	外は色付きの種類が用いられ、内は乳白色が多い。

湯のみとお茶との関係

お茶の種類によって湯のみを使い分けると、よりお茶を満喫することができます。

【淹み】
ほうじ茶などの熱いお茶で淹れるお茶は厚め湯のみを用いると、持ったときにあまり熱くなりのでで、ゆっくりとお茶を楽しめます。玉露などの高級が品のお茶で淹れるお茶は、薄めの湯のみを使用すると、お茶の温かさが心地よく感じられます。

【飲み口】
煎茶は香りが命のかなため、口を広げて香りを感じやすくする湯のみが多くみられます。一方、ほうじ茶はしっかりと香るので狭めの口で香りが逃げないようにします。

注意

長く湯のみを使用するために、新しい湯のみを使用するときは、湯通しをしてください。湯使用によってヒビが入るおそれがあるので、湯が温かくなったときの頃で、水から温めるひとはどが多いです。

ぴんちゃんの豆知識

湯のみのように、お客さんをもてなすための道具を数えるときは、「一客（きゃく）、二客」という数え方をするんだって。

お知らせ（オリジナル湯のみ作り　色付け）
日時と場所：8月9日（土）午前9時30分～正午（青少年研修センター　集合所）
持　ち　物：汚れてもいいタオル2枚、汚れてもいい服、色付け用の筆（お貸出しあり）

※素焼き（焼成）
日時と場所：7月30日（水）午前7時～午後3時
（青少年研修センター　陶芸窯）